

すっかりけやきの葉の色も変わりましたが、なぜか今年は落ちてくるのが遅い気がします。枝に必死にしがみついているようにも見えます。多分皆一斉に手を放す気なのでしょう。その瞬間は見たいのですが、下に落ちた葉っぱは見て見ぬふりをしたいものです。

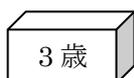
さて、子ども会も一段落し、子どもたちも先生も少しほっとしていると思います。保護者の皆様のご協力にも感謝いたします。ありがとうございました。どの学年の子ども会も、子どもたちの今まで過ごしてきた園での生活がたやすく想像できるような、前向きな取り組みの姿を見せてくれてうれしく思いました。

つい先日テレビで、今の常識非常識みたいな番組の中で、昔ばなしなどの絵本の内容が以前とは違っている、というのをやっていました。さるかに合戦はさるかにばなしになり、戦いというのがどうやらふさわしくないらしい。お母さんガニは死なずに怪我に。牛のフンはなくなり、最後はサルと仲直りします。なぜ?の問いには「コンプライアンス的なことで・・・」と保育園の先生が言っていました。モノの見方や角度、あるいは時代によっての変化はあるでしょうし、いい悪いの話をする気はありませんが、できるだけオリジナルに近いものや伝承を受け継いでいるものには、内容にそれなりの意味が存在するとは思っています。だからこそ長い間読み続けられているのででしょうし、「あなたにどんな思いが残りましたか」「あなたは何を感じましたか」という、正解のないその人それぞれの感性を育ててくれているような気がします。

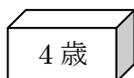
けやきの子ども会の取り組みを通していえば、ひとつの絵本を基にして、それを再現しながらクラスの子どもたちが、今やっていることの「面白さ」や「大切さ」を共有・共感する、あるいはそれにお互いに「近づいていく」ことによって、その「価値観」のようなものを拾いながら山のてっぺん（同じゴール）へ向かおうとする彼らのちからを感じます。

子どもたちの姿はさまざまなのですが、その見方によって、できれば肯定的な見方によって、子どもたちの思いや感じ方を受け止められたら皆さんきっとこう思うはずです。「うちの子やるじゃん。」「いいところあるじゃん。」と。

今月のねらい（育ってほしい姿や経験してほしいこと）



- ・友達とあそびのイメージを広げ、言葉を交わしながら遊ぶ
- ・劇ごっこなど、ここが面白いと感じたところを思い切り楽しんでみる
- ・異年齢でのかかわりをもち、親しむ
(中長の劇をみる・おもちゃつき・誕生会・クリスマスなど)



- ・おもしろそう、やれそうと思えることに、自分からかかわって繰り返し取り組む
- ・自分の力を発揮するうれしさを感じる
- ・クラス全体でまとまってすると楽しい遊びや活動を経験し、実感する



- ・ドッジボールや鬼ごっこなど、ゲームやルールのある遊びを大勢の友達と一緒に楽しむ
- ・互いにアイデア・イメージを出し合って、話し合ってクラス共通のものにする
- ・全体を見渡して、必要に応じて援助しあうことができる